

# 「前期」と比較する際の 着眼点と分析のポイント

①② 櫻沢 健 ③ 井村清志

まずは決算書を「前期」と比較する際に、  
どう行えばよいかポイントを解説します。

① 貸借対照表を  
「前期」と比較する際は  
「ここ」に注意しよう



● 個別の勘定科目や  
比率の変化に着目する  
② 前期の数値と比較する際のポ  
イント

## 貸

借対照表（B/S）は、「期末時点の取引先の資産

内容を表したものです。各種数値を

だけではありません。各種数値を

前期の数値と比較することで、取

引先の様々な課題や業況の変化が

浮かび上がってくるのです。

以下では貸借対照表について、

前期の数値と比較する意義を考え

たうえで、具体的な分析ポイント

を解説していきます。

## ● 勘定科目の変化は 経営活動を行った結果

### ① 前期と比較する意義

取引先は日々の経営活動を通し

て、常に変化しています。例えば

在庫を増やしたり、工場を建て替

えたり、さらには金融機関から融

資を受けたりしていますが、こう

した行為はすべて貸借対照表の数

値を変化させます。したがって、

「前期と今期の勘定科目の変化」  
その企業が1年間事業を行った痕  
跡」となるのです。

金融機関の担当者はその勘定科

目の変化を詳細に見れば、取引先

が1年間どんな活動を行ってきた

のか、それがどんな影響をもたら

したのか、把握することができ

わけです。

加えて、貸借対照表の変化に

は、取引先の「経営意思」が表れ

ています。例えば「強気に売上拡

大を目指している」のであれば、

それに合わせた変化を貸借対照表

にもたらずはせず。「支払手段

を変更しようとしている」のであ

れば、買掛金などに変化が生じて

いなければなりません。

前期の数値と比較することで、

そうした取引先の経営意思を読み

取ることも、支援等に欠かせない

のです。

では、貸借対照表のどの勘定科  
目を重点的に前期と比較すればよ  
いでしょうか。

まず決算書を受け取ったら、必

ず見る勘定科目は次のとおりで

す。

⑦ 売上債権（売掛金・受取手形）

…：増減がある場合は売上高の変

化と整合性がとれているか

⑧ 在庫…：大きく変動しているな

ら、売上高対比で過剰感がない

か、損益計算書の粗利益率の変化

と合わせて合理性のある増減にな

っているか

⑨ 不動産（建物・土地）…：増減

があるなら稼働資産か不稼働資産

か確認して、本業に不必要な増減

ではないか

⑩ 投資有価証券…：増えているな

ら、利益の範囲内で適正な投資と

なっているか

⑪ 仕入債務（買掛金・支払手形）

…：増減がある場合、仕入高や棚  
卸資産の変化と整合性が取れてい  
るか  
⑫ 自己資本（純資産）…：増えて  
いればよいが、減少している場合

はなぜ減少したのか  
また、取引先には、すでに一定  
の課題が存在しているはずで  
例えば売上に課題があるなら、売  
掛金や受取手形を重点的にチェッ

クしてください。経営のスリム化  
を図っている取引先なら不動産や  
投資有価証券、さらには借入れの  
推移をしっかりと分析することにな  
ります。このように取引先の課題  
を反映するような勘定科目につい  
ては、より重点的に検証するよう  
にします。

貸借対照表については「比率」  
に変化がないかどうか確認しま  
す。例えば、自己資本比率（自己  
資本÷総資産×100）が前期に  
比べて大きく変動していれば、原  
因を調べなくてはなりません。

貸借対照表の勘定科目について  
は、不自然な増減が見られること  
もあります。このときに感じた疑  
問は、絶対に放置しないでくださ  
い。この疑問を追求することが粉  
飾決算の芽を摘むことになり、実  
態把握につながるのです。

● 具体的な取引先や  
商品名を出してヒアリング

③ 前期に比べ変動があった場合、  
どうヒアリングをするか

具体的にヒアリングする際に

は、「前期に比べて○○の数値が  
増えているようですが、原因を教  
えていただけませんか」などと聞  
きます。できれば勘定科目の内訳  
明細を入手して「前期に比べて売  
上が減っていますが、特に主力販  
売先である○○社様への売上が減  
っているようですね」などと、具  
体的な販売先・商品名等で話をす  
るとよいでしょう。

取引先は「期末の特殊要因」  
「そのときだけ急遽変化した」と  
回答してくることもあります。こ  
れでは不十分です。きちんと原  
因を確認するため、（決算日から  
数カ月後の）試算表を見せてもら  
うとよいでしょう。

特殊要因であれば、決算日から  
数カ月程度経ている現段階で、あ  
る程度回復しているはずですが、  
もし回復していないのであれば、そ  
を指摘して原因を追求しましよ  
う。

こうしたヒアリングを十分に行  
うことで、取引先の資金需要をつ  
かむことができますし、実態把握  
の第一歩にもなるはずで

図表1 前期と比較した貸借対照表

(百万円)							
	前期	当期	増減		前期	当期	増減
流動資産	595	622	27	流動負債	770	777	7
現預金	15	12	⑦-3	支払手形	150	130	-20
受取手形	100	90	-10	買掛金	200	180	-20
売掛金	200	180	①-20	未払金	20	17	-3
在庫	250	300	⑤50	短期借入金	400	450	②50
未収入金	30	40	10	固定負債	400	380	-20
固定資産	720	700	-20	長期借入金	400	380	-20
土地	200	200	0	負債合計	1,170	1,157	-13
建物	150	130	-20	株主資本	145	165	20
機械	300	310	④10	資本金	30	30	0
無形固定資産	20	20	0	利益準備金	115	135	20
投資その他の資産	50	40	-10	純資産合計	145	165	20
資産合計	1,315	1,322	7	負債・純資産合計	1,315	1,322	7

### 注意したいポイントの例

⑦利益があるのに現預金が増えていないのはなぜか ①減少要因は何か ⑤在庫が急に増加したの  
はなぜか ④機械の増加は何か、ほかに設備投資需要はないか ②何に使われたのか